

神奈川県立小田原養護学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和4年度神奈川県立小田原養護学校第2回学校運営協議会	
開催日時	令和4年8月25日(木) 14:00~16:00	
開催場所	神奈川県立小田原養護学校 応接室	
出席者	委員8名(欠席1名) 事務局6名	
次回開催予定日	令和4年11月15日(火) 10:00~12:00	
問合せ先	小田原養護学校湯河原校舎 副校長 鈴木 電話 0465-60-1800(直通) FAX 0465-60-1805 本校(小田原校舎) 電話 0465-37-2758(直通) FAX 0465-37-5356	
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由
審議(会議)経過	<p>出席委員 会場参加:5名、リモート参加:2名 欠席委員 1名</p> <p>1 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日、2回目の開催。ありがとうございます。 ・リモートを利用して、いつでもやり取りできることは、大切です。今回は zoom 利用。活発な意見交換どうぞよろしくをお願いします。 <p>2 学校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモートの体制づくりにおいて、PTAにも予算協力していただいている。感謝いたします。GIGA スクールの取り組みに向けてもさらに。 ・4月から本格的に湯河原校舎がスタート。本校、大井分、湯河原三つが連携しあいながら、取り組んでいる。 ・コロナ第7波の影響が本校でもある。保護者、児童生徒、教職員含め、感染。今後も感染症対策を徹底していく。 ・デイサービス等、地域で夏休みは子どもたちがお世話になっている。ありがとうございます。 ・これから、台風シーズン。防災部会でもご意見を頂ければよろしくお願いします。 <p>3 1学期の学校の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント資料で説明 	

- ・各学部感染症策を講じて、各授業・行事を実施。
- ・泊を伴う学習は、変更し、日帰りで実施することも。
- ・高A3は1年生入学時よりコロナ禍。はじめての外での活動が修学旅行。普段の活動と異なり、戸惑う生徒も。日々の積み重ねが大切と感じる。
- ・湯河原の商工会からの企画。湯河原校舎では、ハロウィンイベントにフォトスポットの飾り付け、カボチャを栽培して飾るなど、参加する予定。
- ・大井分教室の取り組みは、「ネットニュース」や「農政時報」にも取り上げられる。
(校長より 補足)
- ・校外での実習。今年度は昨年度より実施できている。事業所と協力しながら実施。
- ・感染症対策について、国、県の動向を見ながら、学習活動を展開。
- ・医療的ケア児童生徒の通学支援。今年度スクールバスに1名乗車。来年度以降も整理しながら、進めていく。
- ・校内の避難訓練等も引き続き進めている。
- ・「学校へ行こう」はコロナのため、今年度中止。外部への発信は重要と考えている。今は、ホームページを中心に発信している。

4 意見交換

- 現在、子どもが在籍している。中学部から、小田原養護学校に入りたかった。「地域で大丈夫」と小学校の時、教育支援委員会から言われ、中学校支援級へ。もっと、養護学校へ行きたいと保護者が言ったら行けたのかな？ でも、中学校担任がとてもいい先生。本人がとても伸びた。いい結果になってよかった。高等部の通学支援スクールバスもとても助かっている。自力は難しい。高等部の授業は曜日ごとに決まっている。そのことによって、本人も曜日の感覚が身につけてよかった。
- ⇒どこで学ぶか。小中については、各市町の教育支援委員会
で本人にとっての学びの場がよりよいものになるため、
専門家がいろいろな視点で意見を出しあい、保護者、本人と
相談しながら決めていく。在籍した中学校生活がより良い

ものになってよかった。

●①児童生徒のワクチン接種率はどうか

②湯河原校舎の商工会とのつながりはどのように作り上げたか

⇒①ワクチン接種については本人や家庭の意志で行ってもらっている。個人情報保護の観点から調査等を行っていない。

②商工会の方、本校職員、卒業生（湯河原在住）等、以前からつながりがあり、そこからスタート。人と人との輪が広がっている。

●リモートの準備ありがとうございます。

①第7波の影響で、うちの施設では、行事等を中止にすることが多い。学校のように、模索しながら、少しでも実施できるように考えていきたい。

②小学校の教育支援会議に参加した。引き続き、小田原養護学校のアドバイス等をお願いしたい。

③医療的ケア通学支援。学校と情報共有しながら今後も進めていきたい。

●大学も第7波の影響あり。リモートでの参加に感謝。

①小田原養護のホームページを見る。実践の様子がよくわかる。これからも続けてほしい。

②第1回に委員より話のあった、卒業後の進路について。卒業生の進路先へ、連絡先での様子等、学校から各事業所等へアンケートなど取ることはできるか？

⇒②について。アフターフォローで関係者と情報共有をしている。卒業後3年間。アンケートについては、今後検討していく。

●学校前の畑が無くなったが、今はどのようなになっている？

⇒少し離れたところに移動し、活動している。

●委員のお話（教育支援委員会関係）に共感します。地域の支援級の実践。保護者と相談しながら進められ、良い結果

になったことはとても良い。地域と小田原養護のつながりもより深め、実践につなげていってほしい。

- 夏の公開授業。地域との情報共有もできて、とてもよい機会。回数を増やしていけるとうれしい。
- 学校が中心に企画運営しているので、こちらも何かあれば、協力していきたい。卒業後のアンケートについても同様。

◇部会会議

▼切れ目ない支援部会

①現状と課題について

- 小学校のケース会に参加。各専門家と情報共有。組織のつながりが大切と感じる。担当者が変わってもつながることができるようにしたい。小田原養護の夏の公開講座がいろいろな人が集まれる。学校中心だけでは、大変。うちが中心になってやることもいいかもしれない。そのときは学校から地域の学校に声かけを手伝ってもらいたい。

⇒夏の公開講座。講座内容が地域の小中の先生にとっても好評だった。進路支援の話については、学校だけでなく、委員の方々にも協力していただけると、よりよいものになる。

- 小中の先生の知りたいこと、ニーズが何か、キャッチできれば、ぜひ教えてほしい。それに合わせて企画運営できる。

- うちは大学だが、どの学校でも、教育の成果は、卒業後数年たってから。うちの学生の3年間の離職率が高い。卒業後のマッチングができているか？ 大学でも取り組み始めている。マッチングについてのアドバイススキルは、これからも高めていきたい。その一つの方法として、進路先にアンケートはどうかと考えている。

- 高等部の実習や卒業後について、マッチング、スキルアップについて学校からアンケートいただければ、協力していきたい。

- コロナ禍ではあるが、実習を受け入れていく方向で考えている。学校と連携を続けていきたい。

②情報交換・意見交換

○（学校より）委員さんの話から。持続可能な取り組みを。人が変わっても。その一つがこの運営協議会。学校運営にみんなが関わっていく。お互いの良い部分を出し合いながら、積み上げていきたい。

●今までは少なかったが、進路面談等一緒に参加させてもらっている。ルーティン化できてきた。学校がサブで、他がメインで進めていくことも。

●支援級の子ども、保護者に助言するが、その場限りになりがち、情報公開・共有ができるようになれば。個人情報保護の観点を大切にしながら。

⇒我々も同様なことがある。相談に行って得た情報を共有できる仕組みがあるとよい。

●夏の公開授業が増えてくると組織のつながりが増えてよいですね。

⇒公開講座の内容を皆さんにもうかがいながら、企画できるとよい。相談させてください。協同して進めていきたい。

▼防災部会

①現状と課題について

○（学校より）前回の防災部会開催中（5/27、11:30頃）に停電が発生し、エレベーターに児童・教員が閉じ込められ一報があった。エレベーターが使用できないため、児童生徒を階段で2Fから1Fに移動させ食堂で給食を食べた。その後、地震・停電時の対応について業者に確認し、非常時の対応について職員に周知した。エレベーターが使用できない時の移動方法についても検討した。

・全職員を対象に配備計画について周知し、職員の連絡体制について整備している。

・5月地震・火災・津波避難訓練の反省から、今後の課題について報告した。

・今後の課題として、浸水時等、学校に滞在する場合の体制

について、検討中の内容を報告した。

○課題について

A 肢体不自由部門（B部門）の避難方法等について

- ・全体の避難訓練以外にも、B部門教員や応援職員で1F⇔2Fの移動訓練を行っている。

B 非常時の電源確保について

- ・呼吸器や吸引器のバッテリー充電ができる発電機を調べ、使用可能な発電機を優先的に使用できるようにした。
- ・水害に備え、各階（1F・2F）の発電・充電する場所を確認した。
- ・また児童生徒待機場所、医療的ケアを行う場所についても、各階（1F・2F）確認した。
- ・防災用品・衛生物品・防災用食糧の2F以上への保管と1Fから2Fへの移動方法を確認した。

C 水害対策について

- ・本校・湯河原校舎・大井分教室の災害リスクについて、各ハザードマップ（洪水・土砂・津波）を見ながら情報共有した。

D 地域との連携について

- ・小田原市との協定に関する、緊急受入れ時の連携については、今後調整する。

E 湯河原校舎の状況について（鈴木副校長）

- ・湯河原町と小田原養護学校で「災害時における障がい者等の緊急受け入れに関する協定書」を昨年度末3月に締結。また運用等についても確認がされた。被災者に提供する教室などは、児童生徒が在校中に災害が起きた場合も想定して作成してある。
- ・電源確保については、湯河原校舎に軽油エンジンの非常電源があり、約45時間使用可能。校舎のむかいにある町の防災センターには同じ軽油の非常電源があり、7日間分の備蓄があり、非常の場合、湯河原校舎にも軽油を回してもらえる話もしている。
- ・湯河原校舎では、太陽光発電の予算が付き、今年度中に工事が行われる。通常使用を予定しており、蓄電池も設置するので、非常時の使用も可能である。

- ・校舎の向かいに町の防災センター、避難所の町民体育館があり、町の防災拠点となっている。

②情報交換・意見交換

- 今月末、小田原市から新しい災害ハザードマップが出される。新たに洪水と土砂災害のハザードマップが統合される。⇒8月29日、学校に届けて下さった。
- ・台風19号で千葉県に被害が出た後、台風で富水小学校に約250人避難者が押し寄せた。
- ・ペットが連れていける避難所等、LINEですぐに情報が広がっていた。
- ・車椅子対応の避難所等、地域の各避難所の機能を生かせるが良い。(市ホームページで避難所の情報は確認できる。)
- ・水害であれば一晩もあれば水が引く。備蓄食料の他、避難時の食糧を持参できることもある。
- ・スクールバス運行中の地震発生時、トイレ等、社内外での対策をしておく必要がある。
- ・協定があっても実際(災害発生時)の協力体制について確認しておけると良い。
- 3.11(東日本大震災)で被害に遭われた保護者の声から、考えていけると良い。
- 新たな情報を取り入れながら少しずつ整理を行い、具体的な取り組みをしていけると良い。

5【全体を通して】

学校長

- ・本日はありがとうございました。本日は、時間が足りなかったかもしれないが、いただいたご意見を基に学校で検討していきたい。
- ・まもなく2学期が始まる。今後ともご意見や情報共有よろしく申し上げます。

	<p>会長</p> <ul style="list-style-type: none">・ 様々な関係機関の意見を聞けるのは大切な機会。・ 前回、この会議中に停電が起きた。その時の学校の迅速な動きはとても感心した。このような日々の積み重ねを大切にしながら、今後も一緒に取り組んで聞ければと思う。引き続きよろしく申し上げます。
--	---